

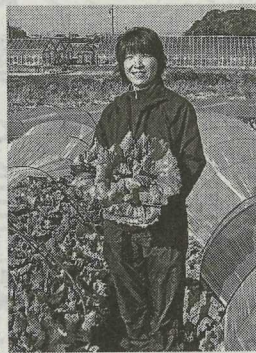
日本経済新聞

2月13日
日曜日

出てこい 農協のライバル

冬の澄んだ空の下に青々と育ったレタス畑が広がる。塚本佳子さんはその1つの根元に手を入れて引き抜くと、「最高の出来です」と言いつつ笑った。

レタス作りに取り組む塚本佳子さん(静岡県菊川市)



事組合法人を立ち上げたかどうか」と提案した。

例えば農協法には「農協の新設を認可する際、すでにある農協の県レベルの上

部組織と協議する」という条項がある。これが農協の新設を妨げているとの批判を受け、農林水産省は法改正を考えている。

農協内にも改革派はいくつかある。首都圏の有力農協の幹部は「できれば近隣の農協にもエリアを広げて、専業農家のための組織をつくりたい」と語る。だが実現には兼業農家の説得も含まれ、気の遠くなるようなエネルギーが必要だろう。

農業法人で3年間研修し、3年前に会社を作った38歳で独立した。独り立ちの地は静岡県菊川市。面積は10センチに達し、売り上げは年7000万円超を見込む。順調な伸びを支えるのは約60の生産者が集う野菜くらぶ(群馬県昭和村)だ。独立から作物の品質の向上、販売まで支援する。

けいざい解説

編集委員 吉田 忠則

業」と書いた。夢の実現へ一歩踏み出した。

研修先は、こと京都(京都市)。山田敏之社長は山本さんの独立の約1カ月前、仲間の農家との会合で「技術情報を共有して就業者を後押ししたい」と話し

た。続けて「(共同で生産する)農協の難しさの一つに

る点が農協と似た面がある。経営形態は株式会社。営の規模や中身とは関係な

の未来に光が差す。

京都府亀岡市でネギを作る山本正明さんは別の法人で学び、昨年11月に24歳で独立した。小学校の卒業アルバムに「将来の仕事は農

研修先は、こと京都(京都市)。山田敏之社長は山本さんの独立の約1カ月前、仲間の農家との会合で「技術情報を共有して就業者を後押ししたい」と話し

た。続けて「(共同で生産する)農協の難しさの一つに

る点が農協と似た面がある。経営形態は株式会社。営の規模や中身とは関係な

の未来に光が差す。

の未来に光が差す。